

埼玉連だより

令和5年5月31日

第
71号

★発行事務局 〒359-0026 所沢市牛沼250-19 (本橋民夫方) TEL・04-2995-3839

埼玉県弓道連盟総務委員会

令和5年度の展望

会長 本橋 民夫

●令和5年4月3日から、埼玉県弓道連盟は「一般社団法人埼玉県弓道連盟」としてスタートしました。当連盟は昭和24年11月に愛好者による任意団体として設立され、70年余りにわたって運営されてきました。近年は、会員数が3千人を超え、組織の規模、予算の規模の拡大等から法人化して組織を運営することが適切であるということから法人化したしました。法人化にあたっては、関係者の並々なご努力と部外力を活用して規則、組織体制等を整え、3月に開いた臨時評議員会において承認され、本年4月の発足となりました。ご尽力頂いた方々には深く敬意を表します。法人化に伴い、審査会・競技会・講習会等において今まで以上に公共性、公平性、透明性等に留意することが必要であると思います。

●当連盟の年間予算規模は3千万円を超しております。1千万円以上の事業収入がある場合は消費税支払いの対象となりますので、当連盟はこれに該当します。納税関連業務及び法人としての会計処理等について公認会計士等の支援を頂き適正化に努め、令和5年度から新たな会計処理に対応いたします。今後、消費税の納付、源泉徴収等により予算への影響が大になると思っています。全日本弓道連盟の分担金の増額により昨年度に県連会費の値上げをしましたが、納税関連で予算は更に厳しい状況になることが予想されます。今後、支出の見直しを行い、今まで以上に切り詰めた予算の執行等により財政基盤の確立に努めたいと思います。

○新型コロナウイルス問題は発生から4年目に入りましたが、未だ収束の見通しは立たない状況にあります。一方、3月13日からマスクの着用は、各人の判断にゆだねられるようになりま

した。また、5月8日からは感染症法上の位置づけが「5類」に引き下げられ、一般のインフルエンザ等と同等に扱われるようになり、世の中が徐々にコロナ前の状況に戻つつあります。

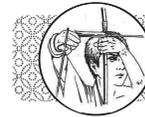
しかし、県内では連日3桁の感染者が出て、感染による死者も出ており、まだまだ油断はできません。従いまして、当連盟としては、令和5年度も従来の感染防止対策を継続して各種事業を進めていきたいと思っております。即ち、3密（密閉、密集、密接）の回避のため、審査会、競技会等においては受付時刻を分散して行い、講習会においては受講者数を制限する等の対策により感染防止に努めます。また、従来の「ガイドライン」(令和5年版)を発行いたしました。各種行事を行う場合にはこれを遵守するとともに、講習会の手引き、大会の手引き等を活用して感染防止対策を進めたいと思っております。

●本年度の国民体育大会関東ブロック大会は、7月22日(土)、23日(日)埼玉県主管で開催されます。大会運営役員の方々には昨年からは準備を進めて頂いております。これからも会議、リハーサル等の予定があり、多大なご負担をおかけ致します。暑い中で大変ではありますが、会員一丸となって対処し成功させたいと思っております。

また、関東ブロック大会は地元開催であり、代表選手たちにとってはかえってプレッシャーになったり、集中できなったり、緊張すると思っておりますが、自分の射をのびのびとやって欲しいと思っております。

最後に、他県から多くの選手、役員等をお迎えするにあたって、どの選手にも最高のコンディションで大会に専念できるよう気を配り、公平に声援を送りたいと思っております。

皆様ご協力のほど、よろしくお願いたします。



専門委員会だより

総務委員会

長年おめでとうございます

令和5年度 受賞者41名

(白寿1名 米寿7名 傘寿33名)

岩田廣太郎 島田和男 井上一也 立川洪介
草賀 淳 加納強志 齊藤祐三 江戸義幸
藤井武政 嶋田勝弘 斉藤隆義 桑原和義
石川昭子 蓮尾徹夫 各務勝洋 八木修一
綾戸岩雄 鈴木さち子 勝俣俊一 境 竹生
中沢みち子 西山 茂 茂原英記 川合倫司
安部撫智子 小島節子 榎澤りん子 平出洋子
森川寛人 新家 透 甲斐久歳 篠原一郎
上橋 宏 黒木昭州 宮坂藤江 野村愛子
栗田善久 富岡征男 関口よしみ
他2名 (順不同・敬称略)

高校・大学の弓道人口

委員長 竹内せき子

今回は県内の高校生、大学生について取り上げてみました。各地連によって異なりますが、埼玉県では弓道部のある高校が89校あります。(秩父4校、県北16校、東部11校、県南11校、県央22校、西部4校、中部21校)1学年の部員数が約1,000人と他地連に比べて多い方もありません。

高校に入学し、弓道部に入学して1年生のあいだ弓道の基本を学び、この春2年生になった部員が4月の始め初段を受審しました。

支部別 高校生 年間登録数

| 2020(令和2年度) | 2021(令和3年度) | 2022(令和4年度) |
|-------------|-------------|-------------|
| 秩父支部 15名 | 秩父支部 30名 | 秩父支部 24名 |
| 県北支部 96名 | 県北支部 125名 | 県北支部 156名 |
| 東部支部 120名 | 東部支部 161名 | 東部支部 176名 |
| 県南支部 129名 | 県南支部 159名 | 県南支部 163名 |
| 県央支部 244名 | 県央支部 316名 | 県央支部 265名 |
| 西部支部 66名 | 西部支部 50名 | 西部支部 67名 |
| 中部支部 181名 | 中部支部 191名 | 中部支部 309名 |
| 合計 851名 | 合計 1,032名 | 合計 1,160名 |

埼玉県の高校を卒業し、他地連の大学などで弓道を再開される数は年間100名足らずですが、身体で覚えた感覚は年齢を重ねてから、きっとまた弓を引いてみたいと思うことでしょう。この中から将来の弓道を担ってくれる仲間が多く出てくれることを期待しています。

支部別 大学生 部員数 全16校

| 2020(令和2年度) | 2021(令和3年度) | 2022(令和4年度) |
|-------------|-------------|-------------|
| 県北支部 12名 | 県北支部 7名 | 県北支部 19名 |
| 東部支部 47名 | 東部支部 48名 | 東部支部 53名 |
| 県南支部 50名 | 県南支部 38名 | 県南支部 44名 |
| 県央支部 89名 | 県央支部 85名 | 県央支部 82名 |
| 西部支部 52名 | 西部支部 17名 | 西部支部 55名 |
| 中部支部 238名 | 中部支部 187名 | 中部支部 196名 |
| 合計 488名 | 合計 382名 | 合計 449名 |

(県北1校、東部2校、県南2校、県央2校、西部1校、中部8校)

大学の場合、すでに中学、高校で登録を済ませ、ID番号を取得している学生が県内外から多く入部します。また、弓道部のない学生は一般道場に入会し、稽古をすることも可能です。

☆ホームページがリニューアルしました

令和5年4月3日に埼玉県弓道連盟は「一般社団法人」となりました。

これに合わせて、埼玉連のバナーもより鮮明なものに変更、そして記事の分類を見直し、情報にアクセスし易くするなど改善しました。

今後は各委員会や各支部などと連携を強め、ホームページを活用した情報発信を通じ、本会の活動を内外にアピールしていきたいと思っております。

ホームページ掲載内容

| | |
|-----------|------------------------|
| 指導委員会 | 講習会案内、講習会報告、大宮公園弓道場錬成会 |
| 国体選手強化委員会 | 国体関連案内 |
| 競技委員会 | 大会案内、要領、結果 |
| 審査委員会 | 申請書類、審査結果 |
| 支部関連記事 | 東部、県南、西部、中部 |
| その他 | 会員に通知される文書など |
| 各道場 | 弓道教室開催情報 |

ホームページに対するご意見・ご要望・改善案などございましたらお寄せください。

(HP担当 神田泰明)

指導委員会

本年度指導目標

委員長 飯島千代子

コロナ感染症が下火になりつつありますが、まだまだ予断は許せないこの頃です。

昨年度は十分な予防対策をしながら予定どおりの講習会を行うことができました。感染拡大を避けるため、30人限定で申し込まれながらも受講できなかった方もありました。当面は今年度も引き続き同じ形式で行う予定としております。

【本年度指導目標】

- ① 射法・射技の基本に徹したうえで「的中」を目指す。
 - ▶ 基本の5項目を深く習得していく
特に基本体型（縦横十文字と五重十文字）を重点にする
 - ▶ 正しい射法八節を実践していく
的中に繋がる会の条件六項目
 - ・ねらいが正しくついているか
 - ・頬つけはしっかりできているか
 - ・胸弦はしっかりついているか
 - ・正しい矢束がとれているか
 - ・縦横十文字はできているか
 - ・伸合い話し合いはできているか
- ② 「基本動作の注意点」のなかで、「腰が基幹」を重点とする
- ③ 「離れ」について
 - ・手先ではなく、「体の中心、体の芯」から発することが肝要
- ④ 高段者について
 - ・更なる射品射格を高めていく
- ⑤ 射技のみではなく、長幼の序等 精神面の努力を怠らない

これらを目標に修練した結果、的中が上がり、健康増進になり、日々楽しい弓道時間が送れることを望んでおります。

競技委員会

新年度について

委員長 市川 政子

コロナ感染者が随分と減少したとはいえ終息したわけではありません。大会時においても控えの場所では、マスク着用をお願い致します。

大会運営も元に戻すにはまだまだ時間がかかると思います。新年度も引き続きコロナ感染対策（人数制限等）をしながらの運営となります。大会要領の内容は昨年と同様に通常とコロナ対応の表記となっております。詳しくは大会ごとの開催案内でご確認くださいませようお願いします。

さて、いよいよ今年7月に国体関東ブロック大会が県立武道館で開催されます。競技役員として約120名の皆様が担当されます。

7月に入ると2日は県民スポーツ大会（国体関ブロック内リハーサル大会）、15・16日は国体関東ブロック大会リハーサル、22・23日は国体関東ブロック大会と続きます。とても暑い時期での大会となり、競技役員の皆様には大変なご苦労をおかけしますが、ご協力の程どうぞよろしくをお願い致します。そして何よりも参加される各県の国体選手の皆様のことを一番考えて、各部署での準備を整えていきたいと思っております。

今年9月より県立武道館の改修工事が始まり、それに伴い大会会場が変更になります。11/25 武道大会・令和6年1/8 新年初射会は日高で開催されますのでご承知お願ひします。

【吉田能安先生の教え】弓道誌より

- * 気持ちがめげそうになったら。
へたばるな道を求めて励みぬけ
- * 仕事が忙しい時。
ぬかりなく一射一射を大切に
- * 辛い状況になったら。
苦しさを突破してこそ生きるもの
- * 毎日は、この言葉を支えに励みたい。
稽古とは邪を捨てて正を積むことぞ
- * 大事に臨んではこの言葉を吹きながらことにあたりたい。

あわてずにおのが心的を射よ

国体選手強化委員会

国体選手の的中率は？

委員長 古泉 利昭

皆さんは、国体選手の的中率がどれくらいかご存じですか。

今、国体選手の選考会をやっていますがどれくらい的中率なら国体選手として試合に出場し活躍できるか、昨年東京で行われた関東ブロック大会の的中率などを例に皆さんにご紹介したいと思います。

ご存じと思いますが、関東ブロック大会は近似的、遠的各24射(4射×2回×3人)合計48射で順位決めし、本大会への出場県を決定します。

この成績で計算してみますと、成年男子・近似的的中率は、参加7都県*合計での中127/総矢数168=76%、遠的的中率は、的中132/総矢数168=79%、また遠的の得点で、的中の得点を全部10点に中とした点数で割った率を得点率とすると得点934/総得点1,680=得点率56%になります。

成年女子では近似的的中率は、7都県合計での中90/総矢数168=54%、遠的的中率は、的中119/総矢数168=71%、また遠的の得点率は、得点720/総得点1,680=43%になります。

ただ、関東ブロック大会を3位（この大会は3位以内が本大会に出場できます。）で通過したチームの的中率は、成年男子で近似的的中率的中20/総矢数24=83%、遠的的中率は、的中22/総矢数24=92%、また遠的の得点率は、得点152/総得点240=63%になります。

成年女子では、近似的的中率が的中12/総矢数24=50%、遠的的中率は、的中20/総矢数24=83%、また遠的の得点率は、得点126/総得点240=53%となります。

この成績は大会1回限りのものですが、他のブロック大会を見てもこの成績から5%くらいの範囲で納まっています。

したがって、国体選手として活躍するには成年男子で近似的が75%以上、遠的80%以上、成年女子では近似的が60%以上、遠的70%以上くらいが必要ではないでしょうか。

この成績を参考に皆さんも国体を目指してみませんか。

※ 国体開催地の栃木県を除く。

審査委員会

実施状況と今後の課題について

委員長 齋藤 安次

●コロナ感染防止対策について

経済活動との調和を図るために、政府から方針転換が示され、対策は個人・事業者の判断に任せることとなりました。

令和4年度の審査会はほぼコロナ禍前と同規模の開催ですが、皆様のご協力の下、一人も感染者を出すことなく運営できましたことに厚く御礼申し上げます。

令和5年度も、受審者・役員などにコロナ感染による重症化リスクの高い人（高齢者・基礎疾患がある）がいますので、今後も引き続き感染対策を考慮しつつ審査会を実施しますので、ご協力のほどよろしく御願ひ申し上げます。

●令和4年度審査会実施結果について

（比較対象はコロナ前の平成30年度）

地方・連合・学生・中央審査会の総受審者数は4,747人(9.3%減)、総合合格者は1,937人(12.5%減)でした。

地方審査会は受審者数が2,894人(6.6%減)、合格者数が1,773人(12.4%減)でした。内訳をみますと四段受審者は8%増え、参段以下は13.1%減っています。

埼玉連主管の連合審査会は受審者が6.6%増え、他地連主管の審査会受審者は8.5%の減少が見られました。

中央審査会は受審者が10.7%減りましたが、合格者は6.5%増えました。

この状況を分析すると、コロナ禍で新規会員が減少したことで低段者の受審者が減ったものと推測されます。また、受審者の減少率よりも合格者の減少率の方が大きいことは、練習の機会が不足したことも要因の一つと考えられます。

●経費削減の役員対応について

県内審査会では多くの審査員及び運営役員の方々にご協力をいただいています。令和4年度は延べ審査員数が345人、運営役員数が758人、その内にコロナ対応役員は264人でした。

コロナ対応にも変化があり、慣れてきたことでもあるので、令和5年度はコロナ感染防止対策要員を半減して運営にあたり経費削減をお願いしています。

女子部

新年度を迎えて

部長 松澤かおり

日頃より女子部活動にご理解・ご協力をいただきまして心より感謝しております。

今期(令和3年度～4年度)は女子部活動の二本柱の一つである東日本女子大会は2年連続で開催が取りやめとなりました。もう一つの埼玉連女子部弓道大会は、令和3年度は『コロナ禍における女子部弓道大会の手引き』に則り、女子部委員のみでの大会運営という形で実施することが出来ましたが、令和4年度は全ての準備が整い開催当日を待つばかりとなっておりますが、実施直前の急激な感染拡大により開催を断念せざるを得ない状況となり中止を決定いたしました。エントリー頂きました会員の皆様には本当に申し訳なく思っております。

このようにコロナに振り回された二年間の活動も3月で終了となり、役員任期も満了となり役員改選を迎えることとなりました。

満了に伴い松崎副部長、山本副部長を含む数名の委員が退任することとなりました。4年前に新任の私と共に女子部委員に就任し全てが初めてのことばかりという状況の中、一緒に多くのことを経験しながら今日まで女子部の活動を支えてきてくれた事を心より感謝しております。女子部で経験した事や身に付いたスキルを活かせる機会に恵まれることを願っております。本当にありがとうございました。

新年度より留任の委員に加え、新たな支部選出の委員を迎えることとなり、今期より就任することとなりました脇本緑副部長、中島幸子副部長と共に新しい女子部がスタートすることになります。今年度は早々に東日本女子大会の中止が決定しておりますが、埼玉連女子部弓道大会は3月に開催する予定です。少し先になりますが準備万端にして会員の皆さんと一年ぶりの女子大会を大いに楽しみたいと思います。また、決められた活動の他にも自分達がやれることやスキルアップ出来る方法を委員皆で前向きに考えていこうと思います。

今後ともご指導くださいますようよろしくお願い申し上げます。

高体連

令和4年前半を振り返って

委員長 坂本 修

日頃より弓道連盟の皆様には、高体連弓道専門部の活動に対しまして、多大なるご理解・ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

令和4年度の行事については、3月28日(火)に開催されました関東大会リハーサル大会で、全日程を終了いたしました。令和4年度を振り返りますと、やはり新型コロナも収束しない中での運営となりました。クラスターになってしまう事案が発生しなかったのは幸いでしたが、感染に関わる出場の辞退となってしまった選手たちのことを考えると、本当に残念な思いです。

令和5年度は、新型コロナ対策が多少緩和されますが、コロナ前のような大会運営は、もう少し先になりそうです。

年度が替わり、4月17日(月)に顧問総会が上尾市の総合スポーツセンター講堂にて行われました。今年度は役員改選の年にあたり、部長については、入間向陽高校校長の田部井洋先生にお願いすることとなりました。令和2年から3年間にわたりまして部長を務められました服部修先生に対しまして、この場をお借りしてお礼申し上げます。副委員長は、丸山先生と眞藤先生のご退任ということになりました。丸山先生におかれましては弓道連盟理事や国体監督として、眞藤先生におかれましてはジュニアアスリートアカデミー事業、大宮公園や武道館などの様々な調整役として大変ご活躍されました。この場をお借りしまして、お礼申し上げます。後任といたしまして、滑川総合高校の小此木先生、進修館高校の平野先生にお願いしました。

今年度の課題として、6月に開催されます関東大会を成功させることです。第67回関東高等学校弓道大会は6月2日(金)から4日(日)まで県立武道館特設弓道場にて行われます。今大会より、制限付きではありますが観客を入れ、声出しによる応援を可とする予定です。

また、今年度は国体関東ブロック大会が本県にて開催されますので、少年男女で通過できるよう強化に励む所存であります。

最後になりますが、今後共連盟の皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【令和5・6年度専門部役員】

部長 田部井 洋(入間向陽・校長)
委員長 坂本 修(深谷第一)
副委員長 小此木利樹(滑川総合)
副委員長 山田 尚子(伊奈学園総合)
副委員長 古岡 大路(川越南)
副委員長 平野 幸男(進修館)
事務局 局長 蓮見 勇人(草加西)
事務局 酒井 良彦(大宮)
事務局 橋本 徹弥(入間向陽)
高体連会計 友井 誠(鳩ヶ谷)
弓連会計 井上 尚(川越南)

<大会結果>

●新人大会兼県民スポーツ大会

令和4年10月1日(土)、2日(日)、4日(火)
大宮公園弓道場、県立武道館弓道場
女子139チーム425名
男子134チーム411名

○女子団体/①本庄B(加川瑠莉、西川由渚、神岡愛伽、細田香瑚)、②寄居城北A(小峯 叶、久保田春菜、高柳乃愛、石口愛莉)、③坂戸西A(木村莉桜、寒河江涼菜、小原沙羅、富田 優)
④川越総合A(河井美沙希、吉村瞳来、梅村優月姫、古谷野真美)、⑤大宮南A(井川 紬、松下和佳奈、竹内 楓、玉村真奈)、⑥深谷第一A(金田叶望、福田明香里、平岡稚菜、奈良美南)、⑦市立浦和A(小芦仁衣菜、村上純奈、佐藤百花、林 杏珠)、⑧秩父農工科学B(江川愛里、奥山結衣、川合菜花、茂木美希)

○男子団体/①所沢北B(関口湧大、林 朝輝、安井彰吾、豊木敬太)、②坂戸西A(宮下雄琉、小林 諒、川端歩武、松尾映輝)、③川越A(歌代 温、金井塚 渉、木川嘉隆、高橋爽太郎)、④川越B(門脇健太、宮崎幹大、岡田樹也、松本花陽)、⑤深谷第一A(尾高翔輝、大井涼蒼、門倉千寿、須藤琢磨)、⑥春日部A(亀田 将、中野拓海、鷹野紘大、大野勇輝)、⑦浦和B(樋口 慶、岡田紬希、鈴木晶太郎、工藤僚真)、⑧成徳深谷A(倉富幸宙、鈴木 悠、市川智康、田沼日向)

※男女団体1、2位と東京成徳大深谷高校(前年度女子団体準優勝で推薦)は東日本高校弓道大会に出場

○女子個人/①谷戸清香(東農大三)、②平峰希美(草加西)、③須藤栄佳(大宮東)、④河井美沙希(川越総合)、⑤永嶋まい花(星野)⑤飯塚紅桜(伊奈学園総合)、⑦島田真名(久喜)、⑧山田夏結(山村学園)

○男子個人/①宮下雄琉(坂戸西)、②金井大和(久喜北陽)、③中嶋優弥(坂戸西)、④藤原拓真(川口市立)、⑤早乙女純生(草加西)、⑥島田康暉(狭山ヶ丘)、⑦小林 諒(坂戸西)、⑧歌代温(川越)

●高校弓道選手権兼全国選抜県予選

11月5日(土)、6日(日)、12日(土)

県立武道館弓道場

男子135チーム419名

女子146チーム446名

○男子団体/①坂戸西A(宮下雄琉、小林 諒、川端歩武、遠藤瑠騎)、②川越南A(那須隼人、加島寛明、倉島怜玖、柿沼幸弥)、③浦和A(樋口 慶、工藤僚真、氏家凌雅、山上陽祐)、④春日部東A(齋藤向日葵、小沼恭士、谷口 楓、小檜山翔月)

○女子団体/①大宮光陵A(野口藍伽、福山莉央、相場春奈、土門結子)②滑川総合A(加藤結菜、金子愛栴、猪口千乃、長谷部李珠奈)、③大宮東A(並木瑠依、杉田帆南、板垣美結、新井結衣)、④川越総合A(草岡美波、河井美沙希、本間 舞、三橋愛莉)

○男子個人/①樋口 慶(浦和)、②宮下雄琉(坂戸西)③松本花陽(川越)、④山元雅之(坂戸西)、⑤中里勇心(川口市立)、⑥那須隼人(川越南)、⑦小沼恭士(春日部東)、⑧齋藤則男(大宮東)

○女子個人/①草岡美波(川越総合)、②島田夏葵(桶川)、③田浦南美(浦和一女)、④板垣美結(大宮東)、⑤猪口千乃(滑川総合)、⑥田島彩也花(熊谷商業)、⑦増田陽菜(久喜北陽)、⑧大山さくら(伊奈学園総合)

●第41回全国高等学校弓道選抜大会

令和4年12月23日(金)～25日(日)

熊本市総合体育館・青年会館 特設弓道場

※入賞なし

●第22回東日本高等学校弓道大会

令和5年3月24日(金)～26日(日)

青森県武道館特設弓道場

※入賞なし

大会・射会入賞記録

●第73回全日本弓道遠の選手権大会

令和4年10月29日(土)、30日(日) 全日本弓道連盟中央道場
 ○男子の部/4位:吉澤喜芳(啐啄) <出場選手>西岡謙市朗(深谷)
 ○女子の部/6位:吉澤郷実(啐啄) <出場選手>須田明江(入間)

●第143回明治神宮奉納全国弓道大会

令和4年11月3日(木) 全日本弓道連盟中央道場、明治神宮武道場至誠館
 参加:有段の部686名、称号の部262名
 ◎個人/称号の部:5位 池田浩次(大宮)

●第34回ねりんピックかながわ2022

令和4年11月12(土)~14(月) メタックス体育館はだの特設弓道場
 ○県代表選手:①新井竹夫(富士見)②渡辺由紀子(富士見)③初田富士夫(桶川)④増渕政行(杉戸)⑤小川幸子(越谷)⑥西崎明伸(入間)⑦坂東富士夫(日高)、監督:西崎明伸(入間)
 *決勝トーナメントに進むも愛媛県に敗退
 ○さいたま市代表選手:①廣川哲次(駒場)②中島英一(大宮)③浅子好夫(大宮)④小日向勝美(駒場)⑤蓮見文子(駒場)⑥善当勝俊(駒場)⑦荒井勝明(大宮)、監督:浅子好夫(大宮)

●令和4年度 第20回埼玉県武道大会【弓道の部】

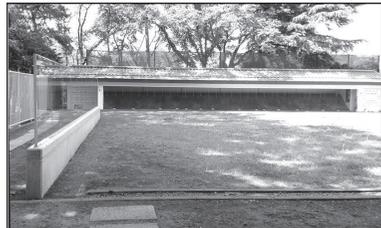
令和4年11月27日(日) 埼玉県立武道館
 参加77名(一般女子・一般男子 選手各5名+監督各1名、7支部計77名)
 ◇支部対抗の部:①県南支部、②県央支部、③東部支部
 ◇一般女子の部個人:①大野さき(静仙洞)、②篠原妃誉(ふじみ野)、③田辺智子(岩槻)
 ◇一般男子の部個人:①宮崎正範(吉川)、②野沢 匠(横瀬)、③西澤裕樹(戸田)

●第70回全日本勤労者弓道選手権大会・埼玉県予選

令和5年3月11日(土) 埼玉県立武道館 参加7チーム(21名)
 ◎団体/①ホンダ埼玉:伊藤隆司、日木 豊、和田秀之 ②さいたま市役所:小林大輔、石井千尋、秋元宏友
 ③航空自衛隊入間基地:加藤則康、大石シェラ、大石泰彦
 ※上位2チーム(3位補欠)は、令和5年6月16日(金)~18(日)に佐賀県で行われる第70回全日本勤労者弓道選手権大会に出場予定

●第41回全国高等学校弓道選抜大会

令和4年12月23日(金)~25日(日)
 熊本市総合体育館・青年会館特設弓道場
 出場校:男子団体、坂戸西 予選通過
 女子団体、大宮光陵 予選通過

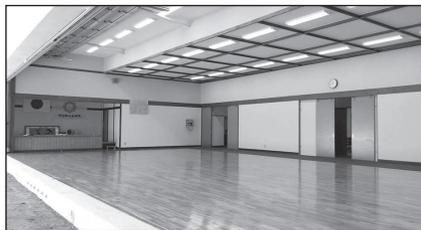


防火フェンスを新たに取付(左右)

リニューアルされた大宮公園弓道場



新しくなったシャッター



きれいになった射場



秩父支部

支部長 町田 文利

今年度の方針

支部長 町田 文利

今年は例年になく春の訪れが早く、秩父地方としては珍しく4月を待たずに桜が満開となりました。秩父支部では4月1日に定期総会が行われ令和5年度の事業がスタートしました。今年度はコロナ禍でしばらく中止となっていた秩父神社奉納埼玉県下武道大会を4月29日に開催することになりました。コロナ感染対策を踏まえたうえで、学生と一般を午前・午後に分けての実施となりますが、4年ぶりの大会、熱戦を期待しています。

年間6回開催予定している支部カップ戦は、今年度から従来通り中学、高校、一般が一堂に会して行われます。通常の事業運営に戻り、再び活気を取り戻して楽しく弓が引けるよう願っています。



定期総会集合写真

<競技・講習会>

●第4回支部カップ戦

令和4年10月23日(日) 秩父市第1弓道場 参加82名

○中学生:①井上亜優②浅賀鉄平③小森愛羅
 ○高校男子:①西 智也②垣塚 陸③田畑健吾
 ○高校女子:①川合菜花②浅見妃良梨③田口乃愛
 ○一般男子:①黒沢 誠②町田孝之③富田昌孝
 ○一般女子:①大野さき②町田昭代③井上美根子

●第5回カップ戦納射会

令和4年12月18日(日)
 秩父市第1弓道場 参加63名
 ○中学生:①若林蒼涼②内藤琉泉③浅賀鉄平
 ○高校男子:①黒沢良太郎②近藤汰一③朝香天翔
 ○高校女子:①高野 桜②北 桂子③新井花菜
 ○一般男子:①野沢 匠②町田孝之③亀井健司
 ○一般女子:①井上美根子②大野さき③嶋田みゆき

●第6回支部カップ戦初射会

令和5年1月15日(日) 秩父市第1弓道場 参加94名
 ○中学生:①井上亜優②浅賀鉄平③鬼頭彩萌
 ○高校男子:①渡邊涼司②北堀祐成③西 智也
 ○高校女子:①加藤聖菜②川合菜花③上布弥梨亜
 ○一般男子:①清水慶一②町田文利③若林武司
 ○一般女子:①柿沼道子②瀬戸美代子③井上美根子

●秩父郡市高等学校弓道大会(四高戦)

令和5年3月30日(木) 秩父高校弓道場 参加50名
 ○男子団体:①秩父高校Aチーム(播磨弘道、常木湊太、黒沢良太郎)
 ②秩父農工科学高校Bチーム(富田修平、井上颯太、西 智也)
 ③秩父農工科学高校Aチーム(渡邊涼司、佐藤誠拳、北堀祐成)
 ○女子団体:①秩父農工科学高校Aチーム(加藤聖菜、川合菜花、上布弥梨亜)
 ②秩父農工科学高校Bチーム(浅見妃良梨、江川愛里、奥山結衣)
 ③秩父高校Cチーム(黒澤美伶、根岸 花、新井ひな乃)
 ○男子個人:①富田修平(秩父農工科学高校)
 ②垣塚 陸(秩父農工科学高校)③西 智也(秩父高校)
 ○女子個人:①奥山結衣(秩父農工科学高校)
 ②加藤聖菜(秩父農工科学高校)③浅見妃良梨(秩父農工科学高校)

●支部高校生講習会

令和5年3月21日(火) 秩父市第1弓道場 参加45名 講師:秩父支部指導委員

県北支部

支部長 高橋 久雄

今年度の方針

支部長 高橋 久雄

今年度は支部の改選期でしたが、高橋が継続して支部長を拝命しました。5期目になり今期が最後になります。マンネリにならないよう心して支部長を務めさせていただきます。

さて、騒然とした社会のなか、コロナ禍を抜け出ようとしているのか、小康状態なのか分かりませんが、世間では大きなスポーツ大会も開催されるようになりました。令和5年3月13日からはマスクの着用も個人の判断となり、コロナ感染防止対策が徐々に緩和されています。

埼玉連では感染リスクの高い高齢者が多いことから、昨年同様に感染防止策を維持しつつ各種行事を実施しています。県北支部としても埼玉連に準じた対応を原則としますが、支部の状況を考慮して次の対応とします。

○支部講習会

支部講習会は人数制限を設けていますが、実際の申込者がそれほど多くありません。昨年同様に実施します。

○射会大会

感染状況によりますが、控え場所が密にならないよう、今年は簡易テントなども活用してより広い控え場所を確保して実施予定です。テントの確保ができない場合にはグループ分けも検討します。なおテントの設営など、是非ご協力をお願いします。

○高校生の講習会と大会

都度高体連の先生方と連携をとり実施します。

いずれも射場以外はマスク着用、換気のため窓やドアの開放、体温計測、昼食の個食・黙食等を継続しますので、ご協力をお願いします。

＜競技・講習会＞

●第3回支部カップ戦

令和4年12月4日(日) 熊谷運動公園弓道場
参加116名39組

○団体：①鴻巣B(設楽謙二、井上まり子、奈良久美子)、②熊谷G(新井好一、小島玄二、坂本温見) ○個人：一部①設楽謙二(鴻巣)、②樋口一広(行田)、③佐藤文治(深谷) 二部①奈

良久美子(鴻巣)、②関口尚人(熊谷)、③三澤一夫(熊谷) 三部①小野田恵子(武道館)、②坂本温見(熊谷)、③樋口真由美(深谷)

●新年初射会兼中央審査昇段昇格者祝射会

令和5年1月15日(日) 熊谷運動公園弓道場
参加40名 昇段昇格者○鎌士:大澤雄機男(羽生)、内山俊夫(行田)、中 唯志(熊谷)、衣袋秀雄(寄居)、島崎崇光(行田) ○六段:井上まり子(鴻巣)

●令和5年支部総会射会

令和5年3月26日(日) 熊谷運動公園弓道場
参加:総会42名、射会36名
個人①大嶋道雄(熊谷)、②西岡謙市朗(深谷)、③掛田春雄(羽生)

●第3回支部講習会

○初段・武段
令和4年10月12日(水) 深谷BT弓道場
参加13人 講師:飯島千代子範士
令和4年10月16日(日) 行田市弓道場
参加19人 講師:島村保男教士
○参段・四段
令和4年10月20日(木) 寄居町弓道場
参加10人 講師:戸塚藤代教士
令和4年11月27日(日) 本庄市弓道場
参加23人 講師:岡芹喜行教士

県北では、コロナ禍の影響だけではないと思いますが、射会や講習会など各種行事への参加者が減少しています。大勢の参加を望みます。

●県北支部高校受審者講習会

令和5年3月25日(土)
○熊谷運動公園弓道場 午前29名、午後23名
○行田市弓道場 午前20名 午後26名
○本庄市弓道場 午前22名、午後17名
講師:岡芹喜行、戸塚藤代、茂木昭夫 各教士他

●第113回支部高校生大会

令和5年3月27日(日) 熊谷運動公園弓道場
参加:男子110名、女子136名 計246名
優秀高校 男子:本庄高等学校、女子:本庄高等学校
○個人男子①大谷 匠(深一)②後藤蒼門(本庄)③菅原大睦(本庄) ○個人女子①鈴木美空(熊農)②芳賀菜々香(羽一)③納本麗愛(本庄)

東部支部

支部長 二見富士夫

＜競技会で会いましょう!!!＞

総務部長 仲田 孝雄

元気なお姿にお会いできますことは嬉しいものです。もちろん、上位競技会への予選会では真剣な眼差しにグッときますし、己の可能性を追求し挑むお姿に感銘です。かたや、祝射会では楽しむ、笑顔の活き活きしたお姿にホッとします。どちらも活力ある健全な社会の形成に貢献するものであると信じます。競技会っていいものだと思います。

この3年間は特に、会員のみなさまが安心して参加できる射会を目指してきました。まず安全です。そして公正かつ公平であること。

円滑な運営ができることを競技部員一同心掛けて工夫してきました。射会後の反省会で意見を出し合い成長してきたと思います。時間差の分割開催や動線の工夫も、まずは参加選手全員のコロナ対策への気構えとご協力の賜物です。分割開催もうまく遂行出来たことに感謝です。

全弓連の競技規則には、目的として、弓道の普及振興、弓道技能の向上、相互の親睦、弓道の発展に寄与と明文化されています。これらを肝に銘じて【明るく、楽しく、元気よく、真剣に】をモットーにやっていきたいものです。これからもよろしく願っています。

会員のみなさま、競技会で会いましょう。

＜競技・講習会＞

●埼玉県武道大会最終選考射会【中止】

令和4年11月3日(木・祝)
県立武道館弓道場

●東部支部 納射会

令和4年12月25日(日) 県立武道館弓道場
参加92名 分割開催(午前48名、午後44名)
五段以上の昇段昇格者お披露目11名、
個人戦:①高橋かおる(久喜)、②高野 聖(久喜)、③福島和三(桶川)

●東部支部 初射会

令和5年1月15日(日) 県立武道館弓道場

参加92名 分割開催(午前48名、午後44名)
個人戦:①大槻良雄(久喜)、②三田 明(春日部)、③小山 徹(春日部)
扇的獲得選手12名

●東部支部 総会射会

令和5年3月25日(土) 県立武道館弓道場
参加94名 分割開催(午前47名、午後47名)
個人戦:①初田美代子(桶川)、②高野 聖(久喜)、③麻生とし江(久喜)

●第6回講習会(一般の部)

令和4年10月29日(土)
幸手市立武道館弓道場 参加28名
講師:根本武次郎教士、村上節子教士
内容:一手行射、射法射技の基本、引分けについて講話、本年度指導方針説明、仕上げ行射

●第7回講習会(一般の部)

令和5年1月27日(土)
幸手市立武道館弓道場
参加33名(2部制にて開催)
講師:大上直美教士、村上節子教士
内容:一手行射、全体講評、射技指導、失の処理、女子襷かけについて、本年度指導方針について

●第8回講習会(高校の部)

令和5年3月29日(水)
幸手市立武道館弓道場
参加79名(3部制で開催)
講師:綾戸岩雄教士、山崎朋美教士、八木修一
鎌士、高橋かおる鎌士、吉丸 寛鎌士、麻生とし江鎌士
内容:執弓の姿勢、入退場の仕方、「失」をした時の動作説明、審査方式の体配指導



イラスト・松本 正

県南支部

支部長 鹿野 信恵

昔も今も

川口市弓道連盟 高橋なみえ

青木公園弓道場の安土の後ろには大きな桜があり、安土の屋根に腕を伸ばしています。そして、その桜が今満開を迎えています。その桜がいつ頃からそこにあるのか分かりませんが、毎年私たちの目を楽ませてくれています。

私が入会した二十数年前、昼間の道場には、いつも四、五人のお年寄りがのんびり弓を引きながらお茶を飲んだり、おしゃべりをしたりしながら（今では考えられませんが）初心者には優しく弓を教えてくださいました。何をしても不器用で、のみ込みの悪い私は夜に稽古をしている諸先輩方のピリピリするような緊張感のある雰囲気に向けてしまいそうになると、のんびりした空気の中に逃げ込みに行ったものでした。すると「お～お よく来たよ来た」と暖かく迎え入れて、指導もしてくれました。巻藁を始めると、腰をトントンと叩きながら「伸ばして伸ばして」と声をかけながら見てくれました。他のことはあまり覚えていませんが、このことだけは鮮明に記憶しています。

そんな陽だまりの縁側のような場所、時間があるからまた頑張らなくちゃと、気持ちを切り替えることができ、弓を続けることができたと思います。彼らがいなかったら私は今ここにいないだろうな、きっと。

このお年寄りの人達は、コロナウイルス感染症の広がるだいたい前に一人、二人と天国に召されていましたので道場閉鎖などで寂しい想いをしないで良かったなと思っています。今もたまには集まって弓道談義などをしているのでしょうか。

2月の月例会には 昨年度の初心者教室からの新人さんが何人か月例会デビューをはたしました。口々に「楽しかった！」と興奮気味に話してくれました。

自分が初めて月例会に参加したのがいつだったかよく覚えていませんが、楽しかったなどと言う余裕は無く、緊張するばかりだったような気がします。やはり年代が変わると気質も変わるのでしょうか。

毎年毎年、新しい人が入り去っていく人もい

ます。それでも安土の後ろの桜の木は、今も変わらずに綺麗な花を咲かせ、我々会員を見守ってくれています。



(青木公園弓道場)

<競技・講習会>

●令和4年度県南支部納射会

令和4年12月18日(日) 県立武道館弓道場
参加76名(午前・午後二部制で実施)
午前の部:①木村美和子(越谷)②富澤英明(川口)③五十川実千恵(吉川)

午後の部:①宮内 毅(越谷)②藤井健人(松伏)③大西三枝子(越谷)

●令和5年度県南支部初射会

令和5年1月14日(土) 県立武道館弓道場
参加74名(午前・午後二部制で実施)
午前の部:①藤井澄恵(越谷)②沼沢睦美(越谷)③瀧上三郎(吉川)

午後の部:①五十川実千恵(吉川)②村永政志(川口)③川原有里(吉川)

●令和5年度県南支部総会射会

令和5年3月26日(日) 県立武道館弓道場
参加61名 ①大川欣之(草加)②高橋利夫(川口)③宮澤梢枝(川口)

●第3回講習会 二段以下の部

令和5年1月22日(日)
川口市青木公園弓道場 参加19名
講師:相馬喜恵、宮内 毅 各教士

●第3回講習会 参・四段の部

令和5年1月29日(日)
緑の森公園越谷市弓道場 参加29名
講師:鹿野信恵、木本将史 各教士

●県南支部高校生講習会【中止】

※講習内容は各段位に応じて体配・射技指導等を実施

●県南東部高校選手権【審判員派遣中止】

令和5年3月30日(木)31日(金)
大宮公園弓道場

県央支部

支部長 荒井 渉

浦和駒場体育館弓道場

駒場弓友会会長 廣川 哲次

浦和駒場体育館弓道場は昭和49年に市制40周年記念事業の一環で市立浦和高校南側にある浦和市宮弓道場から現在の場所に移転をしました。現在の場所で活動している浦和駒場弓友会は、会長を平成27年から現在まで第7代廣川哲次が務めており、会員数は令和4年度末現在、県連加入132名、弓友会のみ33名の合計165名で称号者は坂本武彦教士八段を筆頭に20名在籍しています。

コロナ前は200名程在籍していましたがコロナによる利用制限等により大幅に減少を致しました。弓友会の主な活動は、月例射会・敬老祝射会・納涼射会・百射会・講習会・研修旅行等を行っています。また初心者弓道教室も毎年実施しており、以前は25名募集でしたが現在は人数制限等があり15名募集です。しかし定員を大幅に超える応募があり抽選をしている状況です。

<競技会・講習会>

●さいたま市民体育大会(一般の部)及び武道大会最終選考会

令和4年10月2日(日) 県立武道館弓道場
参加169名

○団体①岩槻B(武政宏美・田辺智子・軽込次男)②記念(赤嶺直之・小野千絵美・神田亜紀子)③駒場A(北野達夫・後藤 繁・岡田好範)

○個人男子①中島明久(駒場)②作野肇一(駒場)③軽込次男(岩槻)

○個人女子①田辺智子(岩槻)②山岸繭子(駒場)③加藤祐子(記念)

武道大会最終選考で代表10名選出

●さいたま市民体育大会(高校生の部)

令和4年11月14日(月) 県立武道館弓道場
参加507名

○男子団体①大宮東A(山口・佐藤・齋藤)②浦和学院A(武蔵原・野尻・阿部)③大宮A(大島・小林・佐藤)

○女子団体①浦和学院A(船富・志村・阿部)②大宮南B(橋本・松下・竹内)③浦和北A(市川・越前谷・瀬戸口)

○個人男子①齋藤則男(大宮東)②阿部辰尚(浦和学院)③秋元瑞葵(浦和実業)

○個人女子①榎本那南(浦和実業)②市川七海(浦和北)③竹内 楓(大宮南)

●県央支部初射会

令和5年1月9日(月) 県立武道館弓道場
参加123名

○称号者①岡田義助(記念)②坂本武彦(駒場)③榎澤りん子(大宮)

○四・五段①鈴木仁美(大宮)②森山 剛(大宮)③森 典子(大宮)

○参段以下①塚越紀子(駒場)②吉澤幸子(岩槻)③石田悦子(記念)

●県央支部総会射会

令和5年3月18日(土) 県立武道館弓道場
参加66名 ①山岸繭子(駒場)②軽込次男(岩槻)③三池和博(大宮)

●春季高校生(中学生)大会

令和5年3月29日(水) 県立武道館弓道場
参加641名

○男子団体①浦和B(工藤・山上・鈴木)②浦和A(樋口・宮原・今藤)③大宮A(大島・小林・佐藤)

○女子団体①市立浦和A(小芦・林・村上)②大宮東A(並木・杉田・板垣)③大宮A(徳尾・島村・綾城)

○個人男子①町田佑和(大宮)②関口璃音(与野)③大島央翔(大宮)

○個人女子①村上純奈(市立浦和)②杉田帆南(大宮東)③山本寧音(浦和実業)

○中学生個人①福田莉子(市立浦和)②串間萌花(市立浦和)③鮫島一番(市立浦和)

●高校生講習会

令和5年3月11日(土)～19日(日)

各高校弓道場他 参加8校132名

講師:支部内指導委員

講習内容:審査に向けて体配および射法八節の指導

西部支部

支部長 池谷 茂

令和5年度に向けて

支部長 池谷 茂

令和4年度の評議員会は3月18日に開催し、次期も引き続き支部長を拝命しました。どうぞよろしくお願致します。

支部の運営にあたっては各役員、及び会員一人ひとりの協力をいただきながら進め、更なる支部の発展に努める所存です。

事業の実施にあたっては、コロナの感染が徐々に終息に向かっているように見えますが、予断を許さず、気を引き締めて計画された事業を予定通り実施していく予定ですので、会員のご協力よろしくお願致します。

令和4年度はコロナ禍、多くの事業が中止となったなか、ガイドラインに従って実施した事業もあり、久しぶりの射会で会員同士の再会を喜び合っている姿を目にしました。

今年度はより多くの会員の笑顔が見られるよう願っています。また、一人でも多くの方が昇段、昇格されるよう願っています。支部として各種講習会を通じて会員の技量向上を支援していきます。

今後とも先輩の各諸先生方にはご指導とご鞭撻、よろしくお願申し上げます。

<競技・講習会>

●第32回西部支部高校弓道選手権大会（中部支部と合同）西部支部結果

令和4年11月3日（木）日高アリーナ弓道場

○団体男子 ①所沢北C（知久・松下・岸川）

②所沢北A（長尾・久和・萩谷）③所沢北B（関口・林・安井）

○団体女子 ①所沢北A（内沼・山根・大塚）

②所沢北H（岩田・武田・竹蓋）③所沢北B（七川・荒木・藤井）

○個人男子 ①岸川（所沢北C）②萩谷（所沢北A）③松下（所沢北C）

○個人女子 ①大塚（所沢北A）②岩田（所沢北H）③武田（所沢北H）

●支部納射会

令和4年12月10日（土）

所沢市民武道館弓道場 参加123名

○三段以下の部 ①大塚俊雄（志木）②安高由

紀子（和光）③本庄準也（三芳）

○四・五段の部 ①篠原妃誉（ふじみ野）②荻原経市（三芳）③清住洋恵（所沢）

○称号の部 ①吉田沢美（朝霞）②平松栄治（志木）③坂井孝嘉（ふじみ野）

●支部初射会

令和5年1月22日（日）

所沢市民武道館弓道場 参加69名

○一手皆中賞：池谷 茂（ふじみ野）、武田さおり（朝霞）、米野久栄（朝霞）、荻原経市（三芳）、増田裕子（所沢）他6名

●支部総会射会

令和5年3月18日（土）

所沢市民武道館弓道場 参加32名

①出下晃一朗（朝霞）②廣瀬雅孝（所沢）
③永島英男（所沢）④坂井孝嘉（ふじみ野）
⑤池谷 茂（ふじみ野）⑥中村康代（所沢）
⑦坂井奈巳（ふじみ野）

●第3回講習会

令和4年10月23日（日） 武段まで

富士見市立総合体育館弓道場

参加：午前・午後31名 講師：岡田義助教士

内容：一手行射全体講評、学科審査について、射技指導、仕上行射

令和4年10月23日（日） 参・四段

朝霞市内間木公園弓道場

参加：午前・午後30名 講師：廣松 弘教士

内容：午前肌脱ぎ襷さばき、午後執弓の姿勢、全体：一手行射講評、射技指導、仕上行射

●第4回講習会

令和5年1月29日（日） 武段まで

三芳町弓道場 参加：午前・午後25名

講師：池谷 茂教士 内容：執弓について、

一手行射、射技解説、射技指導、仕上行射

令和5年1月29日（日） 参・四段

所沢市民武道館弓道場 参加：午前・午後37名

講師：岡芹喜行教士 斎藤和子教士

内容：一手行射全体講評、体配指導、射技指導、仕上行射

●特別講習会

令和5年3月25日（土） 錬士対象

所沢市民武道館弓道場 参加22名

講師：浅野有三教士 内容：一手行射、全体講評個評、講師演武、射礼研修、射技指導、仕上行射

令和5年3月26日（日） 五段対象

所沢市民武道館弓道場 参加30名

講師：浅野有三教士 内容：一手行射、持的射

礼（指導あり）、射技指導、仕上行射

●高校生春期講習会

令和5年3月30日（木）

所沢市民武道館弓道場

参加：午前14名・午後15名

講師：池谷 茂、松寄燕子 各教士

内容：執弓の姿勢、入退場、一手行射、審査に向けてのアドバイス、射技指導、講評

編集後記 71号

久々に明るい話題だったWBCも終わり、現実に戻されると相も変わらずコロナ禍で、事件・事故や戦争が新聞紙面を賑わせています。そんな中、我々の社会生活もコロナ禍前に戻りつつありますが、予断はゆるされません。緊張感をもって各行事に望みましょう。

今回の記事には、弓道仲間と集える楽しさ・喜びなど、期待が込められた記事が目につきました。今年こそ明るい1年になって欲しいものです。

さて新年度、埼玉県弓道連盟は一般社団法人となりました。まだピンとこない方が大勢いると思いますが、社会的責任も大きくなります。できれば今後、法人化のメリット・デメリット等を一般会員の方へわかり易くお伝えできたらと思います。

私事ですが、平成29年（59号）から埼玉連盟だよりの編集に携わり、あつという間の6年間でした。編集長は今回で退任させていただきます。諸先生方にご指導いただき、編集の大変さ・楽しさ等貴重な経験をさせていただきました。大変ありがとうございました。

編集長 高橋久雄

中部支部

支部長 寶田 常則

新任のご挨拶

支部長 寶田 常則

2015年から日高市弓道連盟会長、2019年から中部支部理事長をしておりましたが、昨年度の中部支部評議員会に於いて、前任の鳥田支部長の後を引き継ぐことになりました寶田と申します。どうぞよろしくお願致します。



弓を始めたのは大学に入ってからで、体格・体力に関係なく活動できそうな弓道を選びました。大学では秋山照美先生のご主人の秋山一長先生のご指導を受けました。照美先生のお父さんの久田福一先生にも年に数回来ていただき、ご指導を受ける幸運にも恵まれました。

社会人となってからは仕事も忙しく、しばらく弓から遠ざかっていました。その後1977年に埼玉県に転職（高校の教員）となり、学校では弓道部を立ち上げ部活動の指導にも専念しましたが、その間自分の稽古はできない状況が続きました。

2004年に「第59回彩の国まごころ国体」がきっかけとなり、弓道競技会場だった「ひだかアリーナ」で稽古したい思いから日高弓連の会員となり現在に至っております。

支部長を任された今、その大役を務められるか不安な気持ちもありますが、それと共に責務の重大さを感じております。諸先生方のご助言やご指導を頂き、支部会員の皆様と更なるコミュニケーションを取りながらこれからの中部支部の運営に取り組んでいきたいと思っております。

理事長 坂東富士夫

今年度より中部支部にて理事長を務めることになりました坂東です。諸先輩が築きあげた支部体制の維持と会員の弓道技能向上支援を通じて支部の総合力の向上に努めますので会員各位のご協力をお願いします。

私個人の弓道歴は本年迄19年と短いですが会社員時代に身に付けた組織の中でのフォアチームの考えと7年間の県連競技役員及び所属

属弓連での理事長他の経験が自身の支えになっています。

昨年11月、ねんりんピック2022かながわ大会に埼玉県代表の一員として出場しました。仲間に助けられ、参加68チーム中7位タイで予選通過し優秀賞を受賞。決勝トーナメントでは惜しくも1回戦で愛媛県に敗れました。この経験を通じて、全国大会の緊張、初日への臨み方、2日目に向けた反省と決勝トーナメントへの心構え等、メンタルを含めたコーチングや事前トレーニングが必要と感じました。この場合は練成会プラスアルファの側面支援の必要の話ですが、審査会対応も弓道技能向上も似たような側面支援が支部等に有れば更にパフォーマンスが向上できるのではないかと感じています。

任期中この課題を検討し、支部役員として少しでも会員の役に立てる様に努めたいと思います。またコロナ対応に追われた時期もあと少しで収束することを願いながら会員の皆様のご健勝を祈念いたします。



2022年ねんりんピックにて

<競技・講習会>

●中部支部納射会

令和4年12月11日(日) 日高アリーナ弓道場 参加61名

○四段までの部 ①島田 勲(小川)②浅見敏彦(飯能)③伊藤謙吾(小川)

○五段以上の部 ①五十嵐好夫(入間)②坂東文(日高)③那須充良(東松山)

●中部支部初射会

令和5年1月15日(日) 日高アリーナ弓道場 参加44名(令和2~4年の五段以上の昇段昇格者、各連盟代表者、支部役員)

●評議員会射会【中止】

令和5年3月26日(日)

川越市運動公園弓道場

●第4回支部講習会(四段以下)

令和5年2月5日(日) 日高アリーナ弓道場 参加38名 講師: 鳥田富男教士、井上 薫錬士

埼玉連だより70号発行記念

思い出(後半)

埼玉県弓道連盟顧問 岡田 義助

○東西対抗戦

大学3年、4年と2年連続出場できた。年に一度、全国各リーグ覇者校が伊勢神宮に集い、大学団体王座決定戦を行う。と同時に日本を東西に区分して、北海道、東北、関東、東京都等の個人優秀選手を選び東西で(写真9)対抗戦を行う。当時の東京都学生連盟では、選手5名の出場枠があったが、運良く2年連続で伊勢に行くことができた。

都学連は一部から六部位迄分れて、各部5校が総あたり、そして一部の優勝校だけが王座決定戦に、個人は各部4校との対戦80射を引いて、その的中率上位5名が選出される。当然一部校の選手は的中率が高いが、一部校以外でも的中率が高ければ選ばれる。1試合20射で平均9割以上の的中が求められ、私の学校は二部だった

が選ばれた。4試合で1試合か2試合の20射皆中が求められた。正確に覚えていないが80射76中か、77中位の当たりだったと思う。でも選ばれたことで、国体等試合に行っても多くの弓友との交流があった。



写真9: 学生東西対抗戦 伊勢神宮

○大会でのあがり

一般になって大会で上がったという記憶はないが、高校で一度、大学で一度の経験がある。高校時は2年の時のインターハイ初日であった。入場してからの記憶は一切なく、終わって退場して先生に肩をポンと叩かれ我に返った時と、大学四年時の京都遠大会予選の時である。自分の番がきて入場すると、突然放送が、「ただいま今大会二連覇している東洋大学の岡田選手が入場しました」と。「えっ」と思いながら射位に

立つと右膝に少し震えが、どうしたものかと思ひ、自分でゆすってみたら膝がガクガク震え、引くどころではなく結果は羽分けで予選落ちとなってしまう。この2回であり2回目は自分で意識しすぎの自滅であった。

○一般になって

自分としては弓道は大学迄と思ひ就職活動をし、都内の建設会社に決まり、卒業迄ゆっくり弓を引こうとしていたら、叔父が「秩父セメントに弓仲間がいて弓道部もあるから受けてみないか」と。紹介されたのが町田伝三先生、高校の時に弓を譲っていただいた先生である。気の早い叔父はすぐに町田先生に連絡して何う日を設定。叔父と二人で何うと会社の案内を一通りしてから私と叔父に「浦和から毎日秩父迄通うのは大変、できれば家の近くに就職すれば弓を引く時間がとれる」と。町田先生は叔父と相談、当時の県弓道連盟副会長であり浦和市議会議員でもあった小島隆蔵先生に連絡し、まだ採用試験前だった浦和、大宮、与野の三市に上水道を供給する一部事務組合である埼玉県南水道企業庁(現在は三市合併によりさいたま市水道局)の採用試験を受けることになった。

ところが大学卒業後、弓道部の仲間と石打スキー場に行った初日、頂上付近で激しく転倒、起き上がれなくなりレスキュー隊で下迄運んでもらい救急医療所に。骨は異常なかったものの両膝靭帯損傷ということで歩行できず、仲間とその日のうちに帰宅。両膝はギプスで固定され、自宅では両手で後ずさりしながら移動、そのギプスも取れ両松葉杖で歩けるようになった頃採用試験。しかも2階でとのこと、当時はエレベーターもなく近隣の若い人に頼み、両腕を抱えてもらい2階に。休憩時トイレは1階だったので、母が尿瓶を用意、会議室で用を足した。結果1次筆記試験合格、2次の面接試験も合格した。採用後の仕事は水道メーターの検針と決まっていたのだが、まだ膝が完治していなかったので半月入社を遅らせてもらった。

紹介された小島隆蔵先生は昭和40年から四期の間、県連会長を努められ、47年には私達夫婦の仲人にもなっていた。勤務をしながらも弓道は続けその年の岐阜国体(S40年)に一般男子として初出場で入賞。この年は一般男女、高校男女全て出場、弓道は総合優勝した。

この国体の一般女子の選手の中に増田栄子選手(後の小宮栄子範士)がいた。岐阜国体の宿舎は関ヶ原のホテル、東京の選手も同宿舎で、後に埼玉連に移動された柳章三先生とも知り合った。当時の高校生選手の中には、与野高の大槻良雄(久喜市)選手、秩父高校の吉田公子(現齋藤、秩父市)選手も一緒だった。

この時に隣接する関ヶ原で相対する徳川家康陣と石田三成陣の像があり、朝から夜遅く迄大音量で流す歌は知らず知らずのうちに覚えていた。40年に弓道が総合優勝したことで再来年に迎える埼玉国体に向け頑張れとなった41年は、高校男女が関東予選で敗退、一般男女のみ出場の大分国体であった。

大会初日一般男子はまさかの予選落ちしたが2日目の近的予選はなんとか通過、3日目のトーナメント1回戦も勝ち最終日に駒を進めた。一方女子は遠近共予選通過し、3日目には遠的優勝し最終日の近的を待つのみとなった。そして最終日、一般女子のトーナメントが始まり準々決勝、準決勝と順調に勝ち進み決勝へ、その決勝も撃破し遠近優勝の偉業を達成したのである。興奮さめやらない中、一般男子のトーナメントが始まる。一般女子に誘導されるように、予選1回目が12射9中、2回目が10中で予選通過、3日目のトーナメント1回戦が11中で勝ち、最終日の準々決勝を12対11中で勝ち準決勝へ、その勢いで決勝に進み決勝戦も制し女子に続いて男子も優勝、埼玉デューとなった。



写真10: 大分国体 一般女子のみの出場で総合優勝 表彰後の監督・選手

実は男子の監督が直前に交代、急遽私と高校後輩の大前大槻良雄選手、そして秩父農工卒の中、宮原高夫選手だったため、良く選手を知っているからと、常識では考えられない高校の弓

道部顧問が一般男子の監督となったのである。その監督である与野高校の栗原行平先生は毎晩、その日の結果を埼玉事務局に報告していた。競技3日目の晩にわざわざ男子の部屋に来て雑談の後、そうだ県に報告しなくてはと電話を取り、女子が遠的優勝したこと、男子もトーナメント1回戦に勝ったことを報告、我々男子選手は黙って聞いていると明日の展開へ、先生は明日の結果次第では総合1位になれる。一般女子には優勝してもらいたい。そして一般男子だが問題は香川県、ここが勝ち進めば香川の総合優勝、そこで香川と対戦する和歌山には香川に勝利してもらい、その勝った和歌山に埼玉が勝れば、埼玉の総合優勝する。その様な話だったと思う。なんと前夜県と話したストーリーそのまま実行されたのにはびっくり。嘘の様な本当の話である。そしてその年から作成されたトロフィーを(写真10)を埼玉に持ち帰ったのである。

次年度の昭和42年は地元埼玉開催、一般女子、高校男女共関東ブロック予選なしで、選手が決まると毎週開催地の秩父市で合宿、練習に次ぐ練習、真夏の合宿ではあまりの暑さに標高の高い三峯神社に行き涼しさも満喫しながら必勝祈願、その甲斐あったのか総合優勝シロフィーも守った。

次年度以降も国体に出場していたが、岩手国体(S45年)での近似的準優勝の思い出が。大前、三瓶霸王選手(深谷市、故人)中、桜井義良選手(東松山市、故人)落が私。近似的競技の予選を通過、その後のトーナメントも順調に勝って、決勝戦を待つ間三瓶さんから私達に、「実は俺今日誕生日なんだ」とそれを聞いて私と桜井さんは、「よ～し、今日は三瓶さんの最高の誕生日にしよう、私は決勝戦で必ず四ツ矢皆中する」と言うと、桜井さんも「俺も絶対皆中する」と。決勝戦が終わり敗れた。結果は私と桜井さんが皆中、誕生日の三瓶さんが1中で計9中。最高の誕生日とならなかった。

昭和46年の和歌山国体も違った意味で思い出の一つである。試合前日の事前練習も終わり宿舍が海に近かったこともあり、選手3人で海辺に、大分生まれの故手島正選手は、ほらこれが牡蠣がきれいな海だから食べられるのだと言いながら、小さな牡蠣を岩から剥がし海水で洗って食べさせてくれた。そして事件が、岩の上を3人で歩いていたら突然足を滑らせ手島さんが転び、起き上がった時左手の平をざっくり切り

血が滴り落ちていた。見るとかなり切れていてすぐに薬局に行き消毒薬を購入、手島さんは歯を食いしばりながら消毒に堪えていた。通常であれば弓手の手の平を負傷したのだから補欠選手に交代するところだが、選手3名だけで補欠は連れて行かなかったため、本人は何としても明日の競技には出場すると言って、包帯で手の平をきつく縛って出場したが、思うような成績を出せず予選落ちとなってしまった。

次の年、鹿児島国体(S47年)が選手としての出場が最後となった。国体に出発する前に、職場の上司に挨拶をしに行った際、そろそろ係長候補なので仕事に励んでもらいたい旨の言葉があり、「今年で最後にします」と答えてしまったからである。鹿児島国体の成績は奮わなかったが、宿舍が男女2人が泊まったり休憩したりする旅館みたいで、一緒に行った高校女子がきゃあきゃあ騒いでいるので、何かか行ってみると風呂場で声が、騒いでいる原因は風呂場に入り鏡の前に座ると中からは普通に姿が見えるが風呂場の外から見ると鏡の部分が透けて見える仕掛けになっていて騒いでいたのだった。

国体はやめたが弓道は続けていた。伊沢先生からは「国体をやめたのだったら称号の取得に向けて勉強しなさい」とのことで、和服での練習を勧められ、見てもらいながら稽古した。そろそろ受けてみたらとのことで、錬士の審査を受けたら運良く合格、国体をやめてから3年の月日が経っていた。その年の半年後の11月、神宮審査で六段に。その日は旧県立武道館で引いている人達で作った武道館弓道会の飲み会の日で、審査の帰りに飲み会に。伊沢先生に挨拶に行くと、「審査はどうした」と聞かれたので、「とりあえず2本入れてきました」と答えると、「そうか、でも錬士に合格したばかりなので、後何回か受けないと駄目だな」と。私もそう思っていたら、何日か経って葉書が届き合格したとの知らせが。早速伊沢先生に連絡すると思わぬ言葉が。「そうか私も受かると思っていたよ」と(?)

伊沢先生にはもう1件審査での思い出が。教士の二次審査も通り、論文が書きあがり伊沢先生に見てもらった時の言葉。「論文を読んでみたけど、私には良く理解できない。間違っていないようだからそのまま提出すれば」と、そして「私に解らないのだから、全弓連の審査員にも理解できないよ」と言って

くれた。

論文の題は「弓道における倫理性について述べよ」。題を受けてから、すぐに資料集めとなったが中々原稿用紙5枚分が集まらず、苦しまぎれに大学の授業で使っていた倫理学の本を読み、弓道に使えるような文書を引き出し論文を作成したが、兎に角難しい言葉を並べた記憶がある。今また書いてみると言われても書けない。伊沢先生から言われた通り、提出した論文が返ってくることもなく合格した。

平成元年には七段に。また論文を伊沢先生に見ていただいたが、その頃の先生は体調を崩しておられたが、快く見ていただき今度は大丈夫と。今度は弓道誌に掲載された。

しかし七段合格から四ヶ月後、伊沢先生は帰らぬ人となった。伊沢先生は市営弓道場の練習後、何度もご飯に呼んでくれた。当時私はバイク通勤であった。伊沢先生の家で夕飯も食べ終わり、おしゃべりをしていると雨が降ってきて止みそうにない。合羽もなくノーヘル。先生は体にビニールをあて、頭も濡れるからと玄關に掛けてあった葵印の陣笠をとり、これを被って行けと渡された。夜間だったから良かったものの昼間見たら滑稽な姿だったと思う。またある時は私と住吉藤代(現戸塚先生)さんと2人で先生宅に行き、武道館弓道会の歌を作ったから、2人で覚えて会員に教えてくれと先生のピアノの伴奏で練習、会の研修合宿や会合等で合唱した。

私は旧県立武道館が建設された数年後に、小宮さん(先生)と弓道囃託講師として招かれた。その頃初心者弓道教室が年3回行われ3カ月毎に計30時間で5時から20名、6時から20名の募集だったが、いつも満員の生徒だった。教室は月、水、金で火、木の曜日は一般の経験者の指導日だった。伊沢先生の亡き後の経験者指導には松沢岳先生、池田邦子先生が火曜日に、小宮栄子先生と小川先生が木曜日、時々私も入った。当時の入館料は1日70円、回数券は11枚綴りで700円。弁当持参で1日中弓を引いていた人もいた。現在の県立武道館でも弓道教室は開催しているが、初心者の弓道教室ではなく前年度教室の経験者が優先的に繰り越されるので、最近の教室の初心者は少なく、教室の募集に新たに希望する人達から多くの苦情が入り、来年度の募集から少し変更する予定という。

教室とは別に木曜日の午後錬成会なる練習日を設けている。経験者のみ参加可で、県連盟に所属している方なら誰でも参加出来、1人300円を払って参加、その参加料で武道館団体使用料を払うが、武道館囃託講師がボランティアで指導している。

これとは別に月1回武道館の厚意による無料開放日がある。月例稽古会の名称で他の予定がない限り、1月5月7月を除き第1火曜の9時から17時迄遠近の射場が解放される。この日も午前、午後と講師が指導しています。両会共多くの参加を望みます。

○教士及び七段の合格は

昭和59年に教士合格と記したが、一部の人達から着物で合格したのではと言われた。当日の和服は金茶色の紋付きと黄色のストライプの袴、殆んどの受審者は黒の紋付きなので、兎に角派手だったため着物で受かったのだ。(今は通用するか解りません)

七段は普通の紋付だったが、二次審査の一次的位取りをせよと言われ、私が3人の大前だったので位取りをしている最中、この日の審査委員長(八反田角五郎先生)から突然呼ばれ、何かと位取りから離れて先生の元に。すると先生は「懐かしいなあ、今どこで引いているのか」とか、「毎日引いているのか」話しかけてきた。「先生今私はあの2人の方と位取りをしているので」と答えると、先生は「大丈夫だよ2人は勝手にやらしておけ」等と言っている間に位取りの時間は終了。

八反田先生は、大学時代日本大学の師範で監督。私達の大学とも試合や定期戦で多くの戦いをしてきたが、大学時代は超怖い先生で、東西対抗戦では少しだけ話をした程度だった。

しかし先生に話しかけられたことで、私が位取りを間違えたら後の2人に申し訳ないと歩数等に細心の注意をしながら行っていたら、不思議と行射も固くならず終了、一手皆中だった。八反田先生との話し合いから、自分のことより他人のことを考えながらという行為が、結果的に無駄な力を抜くことができたのではと考えている。

○与野弓道会

平成も数年が過ぎ、私の兄弟の長兄が地元の

有権者に誘われ与野市の市議会議員に立候補し当選した。その任期中一般質問で弓道場建設について何度となく質問した。浦和、大宮市について何故与野市に弓道場がないのか等、兄は私からも情報を聞き出しながらの質疑に。当初は思ったような土地がなく、また財政的にも困難と答弁していたが、何度となくの質疑に、当時の教育長が埼玉県や県立である与野高校と協議を重ね、高校の練習後や土、日、休日等の空き時間を一般開放するとの答弁を引き出した。それからは居住していた弓道人に声かけし、弓道会の前身なるものを立ち上げ、その後弓道会として支部に加盟した。但し、私は県武道館弓道会に所属していたため準会員となっている。普段の日は難しいが、土、日、休日の練習と共に、特に公共機関が休みとなる年末年始の練習が可能である。

○県央支部誕生

政府発表の平成の大合併の話が、出では消えていた浦和、大宮、与野の三市合併の話が本格化してきた。私も市の職員でなかったが、三市で構成する一部事務組合で、三市 100 万人超の市民に上水道を届ける仕事で職員や委託者は 500 人超勤務していた。その水道事業は三市が合併すると、自動的に市の組織の一員となる。我々も三市市民も注目している中、合併協議会も発足、浦和と大宮の綱引きと与野の調整役、大宮は上尾市議員とも話しを進め大宮市を市の中心へと、浦和はそうはさせじと動く。その協議会は紆余曲折があったものの、やっと合併が決まった。合併が決まることにより、埼玉連の支部編成も、当時の浦和、与野市は県南支部、大宮市は東部支部だったので、さいたま市と近い将来さいたま市と合併を予定していた上尾市を加え、県央支部として埼玉連に申請し許可された。そしてその県央支部の初代支部長となった。(その後上尾市長の交代で、さいたま市との合併が白紙となり、岩槻市がさいたま市との合併が決まり現行の支部体制となった)

○国体選手強化委員長に

県央支部長になったと同時に、県連の常任理事となり国体選手強化委員長となった。平成 14 年度からは一般男子の監督になり、高知、静岡、地元埼玉と 3 年間努めた。その 3

年間の選手は変わらず、吉澤喜芳選手(川越市)と和田秀之選手(和光市現川越市)森田義和選手(川越市)と大学時代に活躍し、当時練習でも 12 射皆中の連続で、このメンバーなら絶対優勝できると思っていたのだが、予選は通過するも、3 位以内は高知国体での遠的競技で準優勝一回のみ。特に平成 16 年度は地元埼玉で、私にとっては地元開催の出場は 2 回目、しかし地元で開催するということは、私の想像以上に選手の負担が大きく、運も味方せず近似的トーナメントで 12 射 11 中するも、相手はその時に限って皆中し涙を飲んだ。最高の選手で実力は充分あっても、少しの運が明暗を分けたのかと思った 3 年の監督経験であった。

○終わりに

こんな生活を送っていたが、平成 10 年を過ぎた頃から私の弓に異変が。会の振動が年を追って大きくなってきた。まだ若い頃、振動流(?)の方を何人か見てきたが、まさか自分になるとは思ってもみなかった。止めようとすればする程振れが大きくなる。狙っているがピタリと狙うことができな。しかし練習を重ねるうちに、ここだという処がでてきてたまには当たる。私は今迄他人よりは少しは多く当ててきたが、決して、他人より秀れていると思ったことは一度もない。他人より多く引いてきたからと思っている。なので現在でも週 1 日か 2 日位しか練習を休まない。遠い昔誰かに言われた言葉「選手は 1 日休むと元の状態に戻るのに 3 日かかる」と。私もその通りと考えて今でも実行しているが、更に年齢の加算が加わり毎日が四苦八苦の連続となってきた。体重増もあって足腰が弱ってきて、立ったり座ったりする動作ができなくなってきたが、喋るは今のところ問題ない。

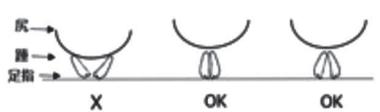
これからの残り少ない余生は、自分で経験した行動や技術を一人でも多くの会員に伝えることができればと思っています。

そして今迄支えてくださった諸先輩の先生方、会員の皆様、そして家族に感謝しながら出来る限り弓道場に通いたいと思っています。弓道人生にも感謝です。 終わり

この原稿は、埼玉連より 61 号に掲載した松澤岳先生の弓道講座(第 10 回)を、その後先生が一部加筆されたものです。

行射の留意事項

(特に上級者、称号者は心掛けて欲しい)
松沢 岳

- 1. 執弓の姿勢**
 - 弓と矢の角度はいつも同位置
 - 立った姿勢、跪坐の姿勢、礼のとき特に跪坐と礼の場合にずれる
 - 2. 歩行**
 - 1 呼吸で 4 歩：入場～本座(吸吸吐吐)
 - 1 呼吸で 2 歩：本座～射位(吸吐)
 - 後足の踵をあげないように
 - 後足で進む気持ち
 - 後ろ足を前に運ぶように歩き動かす
 - 3. 開き足は 2 動作で**
 - 3 動作にならないように
 - 上躰は目の高さ
 - 4. 跪坐**
 - 踵(カカト)とお尻は付けない
 - 開けると背筋が伸びる
 - 膝を生かす努力を
 - 踵を揃える
- 
- 5. 矢番え**
 - 弓を立てる時に、下を見ない
 - 弦の返しは、腰の辺り(右手)
 - できる限り矢は床と平行に保つ
 - 弓を持つ手の肘は下げない
 - 立射のときは肩の高さで
 - 6. 弓の捧持は**
 - 目通り、低い人多い
 - 7. 足踏み**
 - 足の裏を床から空けない
 - 足寄せ 体重を足に裏に感じる
 - 目線の流し方に注意
 - 的から戻ってきた目線は筈に沿い
 - 左手から弓に従い足に行く
 - (二足開きの場合)
 - 8. 取りかけ**
 - おはさみ方式はダメ 鷲の口ばし
 - 9. 縦線に注意**
 - 三重十文字 つぶれる人あり
 - 10. 目づかい** 体は直、目線のみ
 - 立った姿勢 4m 先、跪坐 2m 先
 - 11. 物見**
 - 目使いは筈に始まり、筈に終わる
 - その時、弓手うごく人多し 注意
 - 12. 息合い**
 - 一動作一呼吸の定着
 - 動作しているとき吸気、止まったとき吐気
 - 腹力で行なう
 - 13. 打起し**
 - 円相 45 度の高さ 肘であげる
 - 14. 大三**
 - 勝手は折るだけで引かない
 - 七三の手の内
 - 15. 会の作り**
 - 伸合いは下筋を使う
 - 会の条件
 1. 頬付け
 2. 胸弦
 3. 的付
 4. 矢尺
 5. 三重十文字
 6. 詰と伸び
 - 手の内は柔らかく 目安 6 秒
 - 会の心境 心身合一
 - 『この秋は水か嵐か知らねども
ただひたすらに田の草を取る』
 - 16. 離れは胸割り**
 - 射法訓の確認、離れの右手軽く
 - 早気は駄目
 - 17. 退場礼の目使い**
 - 対象物を見る
 - 18. 甲矢の的中で喜ばない(正射正中)**
 - 束中で始めて喜ぶ
 - 19. 練習の厳正化**
 - 正射の基本を守る
 - 立射は避けたい

※1. 見取り稽古 — 見て正射の工夫
 ※2. スキのない構え — ミスを出さない
 ※3. どのランクに居るのか、手掛かりの方法として審査・大会がある